Report on an English conversation event “English\nHour!” at Kanazawa University

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Inoue, Saki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00054018

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

実践報告

金沢大学における英会話イベント「English Hour!」実践報告

井上　咲希[注]

要　旨

国際化が文部科学省主導で推し進められる中，金沢大学はスーパーグローバル大学（SGU）との認定を受けた。大学へ来る留学生も年々増えている。SGUの目標を達成するため様々なプロジェクトが行われており，その一環で始まったのが「English Hour!」という留学生と日本人学生がカジュアルな英会話を楽しむイベントである。本学のピアサポーターである留学生コンシェルジュ（LeCIS）や他の留学生がイベントの中でファシリテーターとして活躍している。本稿はEnglish Hour!の設計・内容，またどのように大学の国際化・学生エンゲージメントに資するものかを報告するものである。さらに，イベント参加者のインタビュー，アンケートを基に学生のEnglish Hour!への意見を紹介する。

Ⅰ．はじめに

大学の国際化が多方面で進められており，日本へ来る留学生の数も年々増加している。平成30年５月に行われたJASSOの調査において前年比12％にあたる31,928人増加の約30万人が留学生として来日している（日本学生支援機構，2018）。金沢大学でも受け入れる留学生の目標値を設定し，年々受入数が増えている（金沢大学，2018）。同時に国際化のもう一つの柱として日本人学生の英語力向上，及び海外へ留学する学生数増加を達成するため各大学で様々な取り組みが行われており，その一つが授業外学習支援活動である。多くの大学で授業外学習支援の担い手となっているのは「ピア」と呼ばれる学生たちである。彼らは言語学習だけでなく様々な分野で活躍をしており，調査によると52.4％の大学でピアによる学習支援が行われており，国立大学だけにしぼると88.4％の大学で何かしらのピアサポートが実施されている（日本学生支援機構，2017）。また多くの場合活動の場として使われるのはラーニングコモンズと呼ばれる

スペースであり，各大学で多岐にわたる活動が行われている。

2014年に金沢大学が「スーパーグローバル大学創成支援（SGU）事業」に採択された後，2016年から附属図書館で始まったのが留学生と日本人学生が気軽に英会話を楽しめるイベント“English Hour!”である。留学生の中心的な役割は同じくSGU事業予算で採用されている留学生ピアサポーターである留学生ラーニング・コンシェルジュ（Learning Concierge for International Students; LeCIS）の学生が担っており，図書館内に設置された国際交流スタジオと呼ばれるラーニングコモンズ内で行われている。さらに，３年目を迎えた現在では図書館に併設されているカフェでも同イベントが開催されている。本稿ではその実践について学生へのインタビューやアンケート結果とともに報告する。

Ⅱ．大学図書館で進む授業外学習支援活動

１．ラーニングコモンズを利用した学習支援

ラーニングコモンズとは，「学生が自主的に問題解決を行い，自分の知見を加えて発信するという学習活動全般を支援するための施設とサービス・資料を提供する」場であるとされる（米澤，2006）。そのため，ただグループ学習ができるスペースがあるだけではなく，学生の能動的な学びをサポートできるサービスや資料を提供することも期待されている。多くの大学で図書館に併設される形で設置され，文部科学省の調査によると，65.4%にあたる512大学が既にアクティブ・ラーニング・スペース（ラーニングコモンズと同義と扱う）を設置しており，種別にすると国立大学で93.0%，公立大学42.7%，私立大学64.8%となっており，特に国立大学で高い結果となった（文部科学省，2018）。同じ調査において，そのスペースで実施している学習・研究サポートの内訳をみると「分野別学習相談」の割合は「文献検索サポート（40.9%）」・「ITサポート（19.6%）」に次いで３番目（19.3%）の実施率であった。多くの大学でこの学習相談にあたっているのがピアサポーターの学生たちである。

２．ピアサポーターの活躍（言語学習）

学習支援のなかでも，言語学習支援においてピアサポーターは欠かせない存在となっている。英語学習に力を入れている多くの大学ではSelf-Access Centerと呼ばれる学生が自らの意思で使用する学習施設が設置されている。日本自立学習学会（JASAL）のレジストリーには，46の大学等における言語学習センターが登録されている（JASAL，2018）。そこでは教材の貸し出し，ピアや教員との英会話練習，テストに

向けての練習・添削・学習相談などが行われており留学生や留学経験者の学生が活躍している。これらの活動は利用者である学生だけでなく，そこで働く学生自身にも多くのポジティブな影響をもたらしている。Hughes・Krug・Vyeは（2011）は授業外で英語を使用することはより実践的で，言語学習においてとても重要であると指摘している。そしてSelf-access center利用者の授業外L 2（英語）使用の増加や，自主的学習態度の高まりを確認している。さらにYamaguchi（2011）は，スタッフとして働く学生のアイデンティティ変化に注目し，スタッフとして言語学習センターの活動に関わることにより，積極的になるとともに自律学習態度にも良い影響があるとしている。

金沢大学では主に 1 年生を対象とした学習支援を行うラーニング・アドバイザー（LA）の他に留学生向けの支援を行うLeCISが活躍している。LAは学士 3 年生以上から応募できるが，LeCISは大学院生しかなることはできない。LeCIS設置当初は留学生向けの学修支援や院試に向けてのサポートが主な役割であったが，現在は日本人学生向けの言語学習支援のニーズが高まってきている。図書館内のラーニングコモンズ，グループ学習スペースにLeCISとLAのデスクがあり，午後からシフト制で学習支援を行っている。言語学習支援の内容としては，対面で会話の練習をしたり，ライティングへのアドバイスを行ったり，英語能力テストに向けて練習をみることもある。対面での相談のほか, LeCISは各種イベントやセミナーを企画し, 講師を務めることもある。English Hour!への参加はその一環としてLeCISの業務内容に含まれている。

３．学生エンゲージメント

近年高等教育分野で注目されている概念に学生エンゲージメントという言葉がある。学生エンゲージメントとは，学生が自身の学びや大学での活動に主体的に参加していくことであり，主にアメリカにおいて多くの研究が行われている。複数の研究で，エンゲージメントが高い学生は成績や在籍継続率，さらには抑うつの予防にも効果があるなど，ポジティブな相関性があると報告されている（山田，2017；F Fredricks, Blumenfeld，& Paris，2004;Li & Lerner，2011）。そのため，どうやって学生のエンゲージメントを高めていけるかが現在高等教育界で頻繁に議論が行われている。Trowler（2010）は学生エンゲージメントの領域を大きくBehavioral（行動的），Cognitive（認知的），Affective/Emotional（情緒的）に分けている。山田（2017）はこれらの領域と具体的な教職員と学生の行動内容について**表 1** の様にまとめている。

表１：山田（2017）による学生エンゲージメントの類型

領　域	行動的	認知的	情緒的
中　心	参加（participation）	投資（investment）	感情（emotion）
教職員	教育活動（授業，学生指導）への授業内外での積極的な参加，教育改革・改善や研修等への参加など	学生が複雑な考えを理解し，困難なスキルを修得するために必要な努力を惜しまず熱心に取り組む。深い学び	教育や授業，学生に対する肯定的／否定的反応。興味，意欲，帰属意識，愛着，幸福，満足，不安など
学　生	授業への出席，学習場面での積極的な参加，授業外学習時間，学校行事への参加など	複雑な考えを理解し，困難なスキルを修得するために必要な努力を惜しまず熱心に取り組む。深い学び	教師や仲間，学業や学校に対する肯定的／否定的反応。興味，意欲，帰属意識，愛着，幸福，満足，不安など

大学が行っているイベントなどに参加することは主に行動的エンゲージメントに関係している。これは参加者だけでなく，イベントの企画者側に立つ学生にも当てはまり，こうして大学行事に関わることで学生生活に肯定的な影響があると考えられる。

Ⅲ．English Hour!

１．概要

日本人学生と留学生が英会話を楽しむイベント，English Hour!（EH）は，１時間英語だけで会話を楽しみながら，学生たちの文化交流を促進することを主な目的で始まり，2018年で３年目となる。対象の学生は限定されていないが，レベル的には初心者でも楽しめるように設計されている。予約は必要なく，毎回誰でも参加できる。最初の年は月に１度のイベントであったが，2017年度から週１回に回数が大幅に増え，徐々に学生の間で認知度が上がってきている。

金沢大学のほとんどの学類が属している角間キャンパスは広大な敷地を擁し，人間社会学域の学類が入っている北地区に中央図書館があり，理工学域の学類がある南地区に自然科学系図書館が設置されている。そしてEHはその両図書館内のラーニングコモンズにおいて週替わりで開催されている。

EHの中では，LeCISと短期留学生が有償でファシリテーターを務めているが，英語のネイティブスピーカーだけでなく，様々な国の出身者が活躍している。

２．内容・テーマ

EHの企画・運営は附属図書館職員と英語教育が専門の教員（筆者）で行っている。EHでは毎回トピックが設定されており，参加者は基本的にトピックについての会話を英語で行う。イベントの最初にアイスブレークの簡単なアクティビティを行い，そ

れからトピックについての会話に移る。会話は２ラウンドあり，１ラウンド終わった時点で席替えを行い，より多くの参加者やファシリテーターと会話をできるようにしている。

アイスブレークで使用した“Find Someone Who”のワークシートは本稿最後のAppendixに載せている。英語のクラス等でよく使われるアクティビティで，短時間で多くの参加者と会話ができる活動である。また，グループ単位でサイコロトークやカードゲームを行うこともあり，これらの活動を行うことにより，最初緊張していた参加者もよりスムーズにグループ会話に入ることができている。

参加者は年々多国籍化しており，様々なバックグラウンドを持つため，トピックも誰にでも共通するような一般的なものが選ばれている。2018年度12月までのテーマは**表２**の通りである。

表２：2018年度EHトピック

	テーマ
1	Self-introduction & Hometown（自己紹介・ホームタウン）
2	GW & Free time activities（GW&空き時間の過ごし方）
3	Food & Restaurant（食べ物・レストラン）
4	Culture & Traditions（文化と伝統）
5	Entertainments（エンターテインメント）
6	Vacation & Travel（夏休み&トラベル）
7	Challenges for this autumn（この秋に挑戦したいこと）
8	Autumn events（秋のイベント）
9	Winter events（冬のイベント）
10	Looking back 2018（2018年を振り返る）
11	New Year traditions（新年の過ごし方）
12	English Café

トピックについて話す際，ファシリテーターが会話をリードし，学生に話を振る役割を担っている。会話の内容については学生たちに委ねられているが，事前に企画者がトピックについての質問を用意しており，基本的にはその質問から会話が始まっていく。参加者の英語力のレベルは様々で，学生の中には中々自分から会話に参加できなかったり，反対に一人だけ話し続けてしまう学生もいるため，ファシリテーターの存在は重要である。

2018年度からEHの派生イベントとして，「English Café」を中央図書館に併設されて

いるカフェで開催している。English Caféではトピックを特に決めず，アクティビティ等も行わない。EHが初級の学生でも楽しめるように作られているのに対し，English Caféは中級以上の学生が主に対象である。またそのカフェは常に学生たちで賑わっており，そこでEHを行うことにより，広報の役割も兼ねている。

Ⅳ．参加者

１．参加者数の推移

2016年～2018年の全参加者数の推移を**図１**に示した。2016年度は全５回開催し58名，2017年度は全17回開催し192名，2018年度は12月までの開催19回で289名の参加があった。年々参加者数は増加してきている。１回の平均参加者数を出すと，2016年が11.6人，2017年が11.3人，2018年が15.2人であった。2016年と2017年では平均参加者数の違いがあまりないが，前期の参加者数で比べると，2017年から非常に参加者数が増えている。2017年度からは，テスト期間中を除き，週１回中央と自然系図書館の交替で開催されるようになったため，開催数・参加者ともに大きく増えている。

次に，**表３**にある通り，月別の参加者数推移をみると，やはり前期の参加者数が圧倒的に多く。後期に入って徐々に減っていく様子がわかる。2018年度の参加者の急激な増加は主に４月と５月の参加者が非常に多かったことに起因している。４月や前期の方が学生の意欲が高いのは一般的な現象ではあるが，そこで多くEHを開催できたことが増加につながった。４月の参加者が多かった理由として，１年生向けの導入科目内で図書館職員がEHの広報を行い，その結果１年生が多く参加したことが挙げられる。

図１：参加者数の推移（全体）

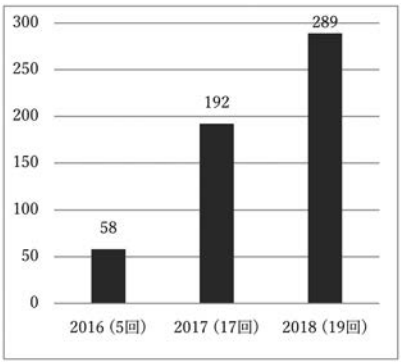


表３：月ごとの参加者数推移

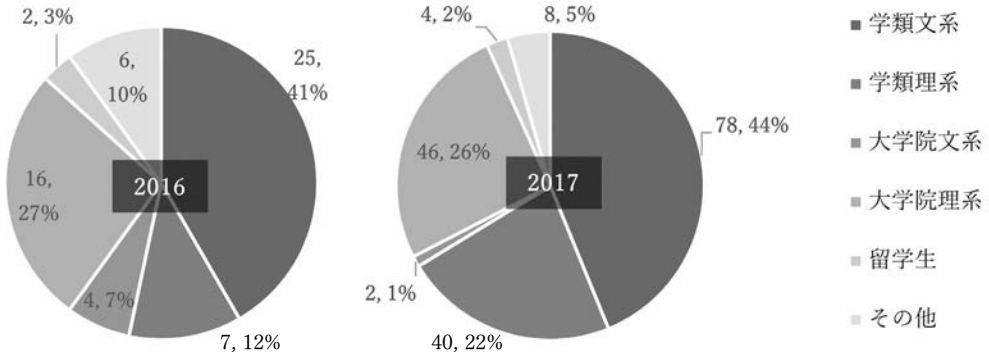
	４月	５月	６月	７月	10月	11月	12月	１月
2016			22	3	13	10	4	6
2017		26	39（３）	48（３）	13（１）	30（３）	16（３）	20（３）
2018	62（２）	97（４）	40（３）	53（４）	24（２）	22（３）	15（３）	―

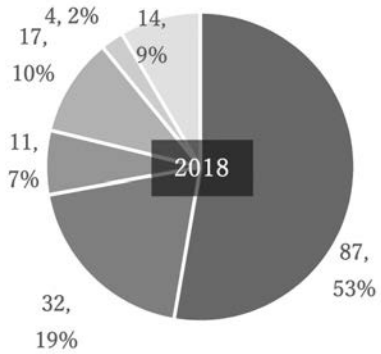
※（）内は開催回数を示す。2016年度は全て月１度開催

また，過去３年間共通して後期，特に12月以降は１回の参加者数平均が約５名と劇的に減少している。その理由として，英語学習への意欲の低下の他，冬季の金沢の天気も影響していると考えられる。冬季は天気が悪いことが多く，加えて暗さや寒さも学生の足止めをしている可能性がある。2017年度は開始時刻が17時と遅かったため，始まる頃には暗くなっており，大学自体にも残っている学生が少ないのではないかと思われた。そのため2018年度から後期のEH開始時間を15時に早めてみたが，残念ながら参加者数にあまり影響はみられなかった。今後は後期の広報の仕方や，内容を前期と変えるということも必要である。

学類別の参加者をグラフにしたものが**図２**である。グラフによると，どの年度でも参加者の約半数を学類文系学生が占めている（金沢大学では学域学類制を採用しているため，学類生とは学士課程に在籍している学生を指す）。次いで学類理系，修士理系の学生の参加が多い。人間社会学域（文系）においては特に国際・人文学類からの参加者が多いことが明らかとなった。人文にも国際にも英語系のコースがあり，元々言語学習意欲の高い学生が多いことが要因であろう。

図２：学類別の参加者数（2016～2018年度７月開催まで）





また理系で特徴的だったのは修士以上の学生の参加が多かったことである。2016年，2017年度ともに約27%を占めている。EHは当初１・２年生の参加を予想していたため，この結果は驚きであった。理系の修士過程では英語で行われるクラスも多く，留学生の数も多いため英語でのコミュニケーションが日常的に行われている。さらに，学生が英語で発表する機会も多いため，英語学習のニーズが高いことがわかった。

EHは英語初心者用に設計されているため，これらの層に対応できる内容の英語学習サポートの導入も今後必要かもしれない。なお，2018年で理系修士学生の参加が減少した(10%)のは後期に開始時間を15時に早めたことで，修士学生のコアタイム(９時～17時)と重なってしまったためであると推測される。同じく，17時が終業時刻の職員の参加も2018年では見られなくなった。この様に開催曜日や時間の設定も難しい問題であり，EHの対象学生を定め，学生のニーズとスケジュール等を考慮して慎重に設定する必要がある。

また最近の特徴として，一般参加者として参加する留学生が増加している。後期で特に顕著になったが，留学生の多い自然科学系図書館での開催の場合，参加者全員が留学生という回もあった。英語を第二言語としている留学生もいれば,既に高い英語力を持っている学生がコミュニケーションの場を求めて参加するというケースも増えてきている。

２．参加者へのインタビュー

2017年度からEHの回数を増やしたことにより，リピーター学生も現れ始めた。そこで，EHに通うことで何か変化があったかを確かめるため，小規模ではあるが，EHに５回以上参加したことのあるリピーター５名を対象に一人20分の半構造化インタビューを実施した。インタビュー項目は，①参加目的，②EHに通って伸びた・変わったと思う点があるか，③英語学習のために自身で行っていること，④EHへの要望についてである。参加目的としては英会話力向上のためがほとんどであったが，留学生と交流したい，留学に行く前の練習という学生もいた。

EHに通うことで伸びた点・変化した点としては以下の点があげられた。

・瞬発力がついた。英語が出てきやすくなった
・自信がついた，安心して話せるようになった
・もっと会話できるようになりたいという意欲がわく
・自分の英語が伝わるのが嬉しい
・留学生の友達ができた
・外国の人と話すことに緊張しなくなった
・アウトプットすると，自分のできてない部分がわかり，改善していけるようになった
・リスニングで前よりもフレーズが耳に残るようになった

以上の通り，特に英語を話すことへのバリアや心理的な影響が大きいことがうかがえる。EHに参加することで英語学習への意欲を維持している,という学生もいた。また,何回も通うことによりファシリテーターの留学生とつながり，EH外でも交流が続いているという学生もいた。文化交流の面では，EHに参加した学生がさらに他言語での

イベント企画を行い，図書館後援でイベントが行われたりもしている。この様に言語学習の他，文化交流の場としても意義があると考える。

また，参加者間のレベルの違いについて，筆者の予想とは違いインタビューした学生たちは肯定的にとらえていることがわかった。例えば，ある学生はテーブル内学生のレベルの違いについて，「英語の上手な人が一緒だと目標ができる」や「実際の状況と近い」などと述べた。後述するが，このレベルの違いについてファシリテーターは反対に難しさを感じており，今後工夫が必要な点でもある。

V．ファシリテーター

1．ファシリテーターの構成

現在EHのファシリテーターはLeCISの他，短期留学生もゲストファシリテーターとして加わっている。ゲストの留学生は自分自身で応募してきたり，何回かEHに参加した学生をスカウトすることもあった。2018年度のファシリテーターは総勢23名で，毎回約５名が交替で参加している。出身国の内訳は**表４**の通りである。

表４：ファシリテーターの出身国

LeCIS	インドネシア４，カンボジア１，タイ１，中国１，バングラデシュ１，ブラジル１	９名
ゲスト	アイルランド２，アメリカ４，イギリス１，ウクライナ１，オーストラリア２，スペイン１，バングラデシュ１，フィンランド１，マレーシア１	14名

ファシリテーターの主な仕事は前述した通り会話を均等に参加者にまわしたり，詰まったときにサポートしたりすることである。研修について，LeCISは雇用時に図書館の業務等についての研修を受けているが，EHについてはゲストも含めてガイドラインを配り役割についての説明があるだけである。そのため今後ファシリテーター研修の必要性や内容について検討していく必要がある。

2．アンケート

EHに参加することによりファシリテーターには何か変化があったのか，参加学生についてどう感じているのか等を知るため，ファシリテーター（2018年度前期）14名を対象にWeb上でアンケート調査を行い11名から回答を得た。質問は以下の５つである。

1．Could you share your impression of the participants of English Hour? How do you describe them?（参加者の印象はどうですか？彼らをどう表現しますか？）

2．Have you found any benefits of being a facilitator?（ファシリテーターをして何か得

たことはありますか？）

３．What is difficult to deal with during English Hour?（EHをやっていて難しいと感じることはありますか？）

４．Do you see any change or improvement of students who repeatedly join English Hour?（リピーター学生について，何か変化や成長を感じることはありますか？）

５．Any request or suggestion to improve EH?（何か要望や提案はありますか？）

この内参加学生に関する印象については非常に肯定的な意見がほとんどであった。参加者全体的に英語を話すことへの意欲が高く，最初あまり話さない学生も時間が経つごとに話せるようになっていくと表現している。

次に，ファシリテーター自身が得たものについては様々であった。回答として次の事柄が挙がっていた。

・自身の英語力向上，英語に自身をもてるようになった

・日本や他の国の文化や習慣について学ぶことができた

・小グループでのファシリテーションスキルが身についた

・新しい友人ができた（日本人も留学生も）

ファシリテーターとして難しいと感じることについては，「参加者のレベルの違いの扱い方」「会話量のバランスのとり方」「シャイ・静かな学生の扱い方」の３点が大きな課題であることが分かった。参加者のレベルの違いについてはイベントの広報の仕方などを今後工夫していく必要があり，後二つに関してはファシリテーション研修の実施等を取り入れていくことを検討していかなければならないだろう。

質問４のリピーター学生の変化を感じることはあったか，という問いに対しては，「質問に対する反応が早くなった」という答えが一番多く，「より自信を持って話せるようになった」「より流暢になった」といった意見も挙げられた。

さらに，もっと学生主体で運営していきたいとの意見もあった。現在は教職員が主導で企画を進めているので，ファシリテーター学生の意見を取り入れながら，将来的に学生たちで運営していけるようにできればイベントの持続性が高まるのではないだろうか。

Ⅵ．考察・EHの今後に向けて

１．参加者への調査結果の考察

参加者へのインタビューとファシリテーターへのインタビューを通し，リピーターになったり，ファシリテーターでEHに関わったりすることによって参加を基本とする行動的領域だけでなく，認知的・情緒的領域でも学生のエンゲージメントを高めてい

けると考えられる。参加者へのインタビューから，リピーター学生は事前にトピックを見て関連する単語を調べたり，事後に復習したり，自身の英語力のリフレクションを行っていることがわかった。これは認知的の中心となる投資にあたり，EHでの学びを最大化する努力をしている学生もいることである。さらに情緒的な領域であげられるのはEHで友人ができたということや，EHコミュニティへの帰属意識などが該当する。これは参加者だけでなくファシリテーターにも当てはまる。こうして学生エンゲージメントを高める活動は授業外学習支援の重要な機能であると考える。

２．EHの課題

肯定的な面がある一方で，今後考えていくべき課題もある。まず課題としてあげられるのはやはり開催日時の設定である。ファシリテーターが確保できる時間である必要があるうえに，学生たちが参加しやすい日時を見極めなければならない。有償で開催しているため，予算の上限があり，毎日開催するということは現実的ではない。これまでの３年間のデータや参加者の多くを占める１年生の時間割を参考に決めていく必要がある。

また，リピーターをどう増やしていくかということも課題の一つである。英語力の向上のためには継続的に参加して英語を使っていく必要がある。しかし現在リピーター学生の数は非常に限られている。その原因として考えられるのがレベルの高さである。参加者についての章でも述べた通り，留学生の参加が後期を中心に増えてきている。日本人学生の様に英語を第二言語として学んでいる留学生もいれば，EHを文化交流の場として楽しむネイティブスピーカーや，非常に英語力の高い学生の参加者も存在する。そのため，英語学習者の学生が遠慮してしまっている可能性もある。日本語をメインに学ぶ短期留学生は学類所属の留学生と違って授業で他の学生と一緒になることが少なく，こういった交流の場を求めていると考えられる。留学生との交流の場と，授業外言語学習の場という２つの役割をEH一つで担うのではなく，別のものとして準備をしていく必要があるのかもしれない。さらに，他大学の取組では，ポイントカードを配布したり，授業での成績に加算するなどして学生のこういったイベントへの参加を促している。今後こうしたサポートやインセンティブを導入していくことも考えられる。

今後に向けて，上記でも少し触れた通り授業との連携を進めるということも考えられる。大規模な言語学習センターを持つ大学では授業の宿題や加点対象として会話センターを使用している例もある。それを行うことにより，参加者が増え，今まで来られていなかった学生たちが利用してくれるようになる可能性はある。しかし，英語学

習に意欲的でない学生たちも来なければならなくなるため，マネジメントはより難しくなると考える。

Ⅶ．おわりに

EHは年を追うごとに着実に参加者が増え，認知度もそれに伴って上がってきていると考えられる。さらに，Japanese Hour, Spanish Hour, Chinese Hourなど，EHをきっかけとして開催された他言語イベントも多い。それらはEHに参加した留学生や日本人学生が自ら企画を行い図書館が後援で開催したもので，今後も様々な可能性を含んでいる。

普段あまり留学生と交流する機会のない日本人学生にとって，EHは国際交流の良いきっかけとなる。今後も気軽に参加できる英会話イベントとしての性格を残しつつ，質を担保できるイベントとしていきたい。長く発展的に開催していくためにも現在抱える課題を乗り越え，学生が楽しく英会話の練習を行える場でありたい。

【注】

金沢大学

【参考文献】

金沢大学（2016)「国際交流 - 外国人留学生受入状況（金沢大学概要2016）“https:// www.kanazawa-u.ac.jp/overview/38908”（2019年１月20日アクセス）

Trowler, V.,（2010）, Student Engagement Literature Review, *The Higher Education Academy*, 1-70.

日本学生支援機構（JASSO）（2018)「平成30年度外国人留学生在籍状況調査結果」”https://www. jasso. go.jp/about/statistics/intl_student_e/2018/index.html”（2019年１月20日アクセス）

日本自律学習学会（JASAL）（2018)「Language Learning Spaces（LLS）Registry」“https://jasalorg.com/lls-registry/”（2019年１月20日アクセス）

Hughes, L.S., Krug, N.P., & Vye, S.（2011）. The growth of an out-of-class learning community through autonomous socialization at a self-access center. *Studies in Self-Access Learning Journal, 2*（４）, 281-291

Fredricks, J. A., Blumenfeld, P. C. and Paris, A. H.,（2004）, School Engagement: Potential of the Concept, State of the Evidence, *Review of Educational Research, 74*, 59-109.

文部科学省(2018)「報道発表資料：大学における教育研究活動を支える大学図書館及びコンピュータ・ネットワーク環境の現状について」http://www.mext.go.jp/b_menu/ houdou/30/03/__icsFiles/afieldfile/2018/03/23/1402588_1.pdf（2019年１月24日アクセス）

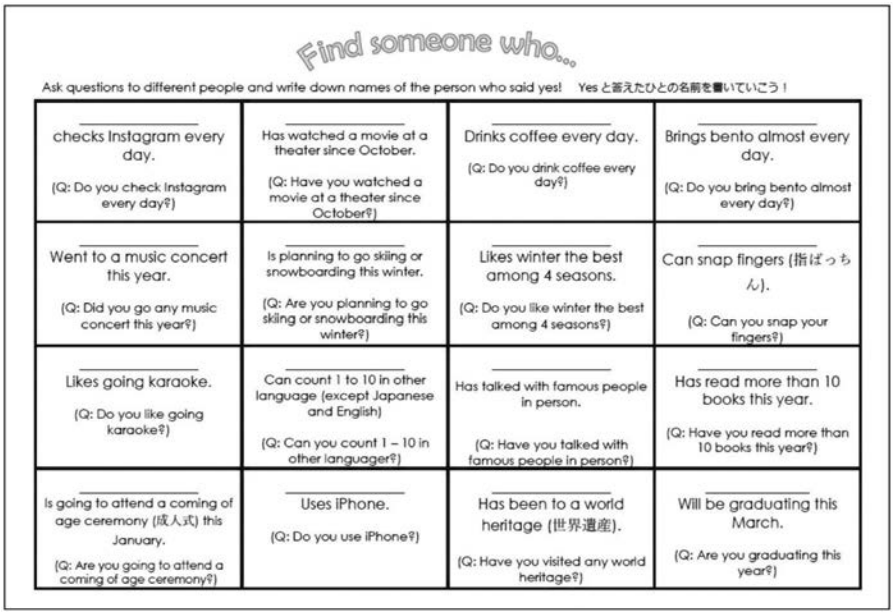
米澤誠(2008)「ラーニング・コモンズの本質：ICT 時代における情報リテラシー／オープン教育を実現する基盤施設としての図書館」*『名古屋大学附属図書館研究年報』7*，35-45

Yamaguchi, A.（2011）. Fostering learner autonomy as agency: An analysis of narratives of a student staff member

working at a self-access learning centre. *Studies in Self-Access Learning Journal, 2*（4）, 268-280.
山田剛（2018）「大学教育の質的転換と学生エンゲージメント」『*名古屋高等教育研究*』*18*, 155-176
Li, Y., & Lerner, R. M.,（2011）, Trajectories of School Engagement during Adolescence: Implications for Grades, Depression, Delinquency, and Substance Use, *Developmental Psychology, 47*（1）, 233-347.

Appendix 1：アイスブレークで使用したワークシートとスライド

1．Find Someone Who



Find someone who...

Ask questions to different people and write down names of the person who said yes! Yes と答えたひとの名前を書いていこう！

checks Instagram every day. (Q: Do you check Instagram every day?)	Has watched a movie at a theater since October. (Q: Have you watched a movie at a theater since October?)	Drinks coffee every day. (Q: Do you drink coffee every day?)	Brings bento almost every day. (Q: Do you bring bento almost every day?)
Went to a music concert this year. (Q: Did you go any music concert this year?)	Is planning to go skiing or snowboarding this winter. (Q: Are you planning to go skiing or snowboarding this winter?)	Likes winter the best among 4 seasons. (Q: Do you like winter the best among 4 seasons?)	Can snap fingers (指ぱっちん). (Q: Can you snap your fingers?)
Likes going karaoke. (Q: Do you like going karaoke?)	Can count 1 to 10 in other language (except Japanese and English) (Q: Can you count 1 – 10 in other language?)	Has talked with famous people in person. (Q: Have you talked with famous people in person?)	Has read more than 10 books this year. (Q: Have you read more than 10 books this year?)
Is going to attend a coming of age ceremony (成人式) this January. (Q: Are you going to attend a coming of age ceremony?)	Uses iPhone. (Q: Do you use iPhone?)	Has been to a world heritage (世界遺産). (Q: Have you visited any world heritage?)	Will be graduating this March. (Q: Are you graduating this year?)

2．Dice Talk

DICE TALK

- Briefly introduce about yourself to your group members.
- Dice Talk!

1. Role a dice.
2. Talk about the topic based on your dice.
3. Other members ask you questions related to the topic.
4. Take turns!

●	Talk about your favorite restaurant or shop.	● ● ● ●	Talk about your favorite tv show, movie, anime...etc.
● ● ●	Talk about your hometown. What kind of place is that?	● ● ● ● ● ●	Talk about a beautiful place where you have been to.
● ● ●	Talk about something you are good/bad at.	● ● ● ● ● ●	You can choose from above or talk about anything you want

Report on an English conversation event “English Hour!” at Kanazawa University

Saki Inoue

Abstract

Internationalization of universities has been strongly encouraged by the ministry of Education in Japan. Kanazawa University（KU）is selected as one of “Super Global University（SGU）” by the government, and the number of international students coming to the university is increasing. KU runs various projects to fulfill the objectives of SGU. One of the projects is called “English Hour!” which international students and Japanese students enjoy casual conversation in English. Peer supporter at KU called Learning Concierge of International Students（LeCIS）and other international students work as facilitators of the event. This article reports how the event is organized and explains how the event contribute to the internationalization and student engagement. Moreover, participants’ opinions toward English Hour! are introduced based on interviews and questionnaire survey.